

今回は、自宅での学習や研究に役立つ「電子ブックの活用法」と、論文執筆時に大切な「参考文献の探し方・読み進め方」の2本立てです。さっそく先輩たちのアドバイスを見てみましょう！



ステイホーム中の調べもの ～電子ブック活用法～

皆さんは附属図書館の「電子ブック」を使ったことはありますか？

筑波大学附属図書館の Web サイト→「電子ブック」→表示されたリストの中から閲覧したい電子ブックのタイトルをクリック→統一認証・パスワードを入力で利用することが出来ます。

電子ブック

Tulips Discovery

すべての電子ブックをまとめて検索するにはTulips Discoveryをご利用ください。キーワードで検索した後、「オンライン」、「図書/電子書籍」で絞り込みを行なうと、電子ブックが利用できるものだけに絞込みできます。（学外から検索する場合、統一認証のIDとパスワードでログインしてご利用ください。）

新着電子ブックリスト

- 新着電子ブックリスト（2020年4月） Excel（18KB）
- 新着電子ブックリスト（2020年5月） Excel（23KB）
- 新着電子ブックリスト（2020年6月） Excel（18KB）

分野別電子ブックリスト

現在筑波大学で利用できる電子ブックをプラットフォーム別に紹介します。
アイコンがついているものは、クリックすると学外からでもご利用いただけます。

全分野

EBSCOhost eBook Collection (NetLibrary)	日本・欧米の主要出版社1,500社以上が参加している電子ブックサイトです。学術書・専門書を中心に、辞書・百科事典・ハンドブック・専門ガイドなどのレファレンス書、各分野の専門書・ビジネス書・一般書が利用できます。 同時アクセス1または3 ユーザーガイド (PDF)
Ebook Central	大手学術出版社を含む約650社から出版された電子書籍を一つのプラットフォーム

新型コロナウイルス感染症の影響でキャンパスに行く機会も限られている中、自宅で参照できる書籍は貴重な資料です。また、「読んでみたいけど高くて買えない」「図書館では既に借りられてしまっていた！」という書籍を探す時、卒業論文や修士論文を書くための先行研究を探したい時に活用してみてください。

ちなみに私のイチ推しは最近「Maruzen e-book Library」に追加された『教育社会学事典』（日本教育社会学会編 2018）です。日本の教育問題や、教育社会学がそれらに対してどうやって、どのような研究方法を用いてアプローチしてきたか、が簡潔に参照できるものとなっています。各項目で何冊か参考文献も紹介してくれています。

電子ブックリストの中には比較的英語の資料が豊富に提供されていますが、自身の研究対象が国外ではどのように扱われているのかを知っておくことは重要です。もし「英語論文を読むのに不安がある…」という方は、「DeepL 翻訳」等の翻訳ツールを使いながらで構いませんので、まずはその論文の“Introduction”だけでも理解してみてください。英語論文は Introduction に論文の重要なポイントが詰まっているので、それだけでも皆さんの研究に新しい視点を与えてくれるでしょう。

文責：FURUHATA（教育）



学外から利用するには、リモートアクセスサービス「Tulips Warp」を使いましょう。（VPN 接続は切ってください）

★リモートアクセスの詳細は→ <https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/collection/tulips-warp>

電子ブックはタイトルによって同時に利用できる人数が決まっています。読みたいものにつながらない場合は少し時間を置いて試してみてください。読み終わったらログアウトも忘れずに！



2020/08/07 発行

<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/>

筑波大学附属図書館

問いの組み立てと先行研究レビュー

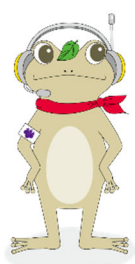
国際総合学類の3年次、4年次生はそれぞれ独論※、卒論を執筆することになります。本稿では、これらの方々を念頭に参考文献の探し方と読み進め方について少しお話します。一般的な話なので、他学類の方の参考になることもあるかもしれません。

独論や卒論を書く際には「問い (RQ: Research Question)」が決定的に重要となります。その論文を通じて何を明らかにしたいのかをはっきりさせない限り、筋の通った議論を組み立てることは難しいでしょう。RQに関する話は図書館に置かれている研究方法に関する書籍で扱われていますので、まずはそちらに目を通してみることをおすすめします。

さて、自分のRQを明らかにするために重要なのは、既存の研究で何が明らかになっているのか、自分の関心のある分野でどのような議論がなされているのかといったことを知ることです。そのためには先行研究を十分に読み込んでいかなければいけません。自分の興味関心のある分野のキーワードで論文データベースや図書館の蔵書を検索し、関連しそうな文献を探しましょう。そうして見つけた論文を時には流しつつ、時には批判しつつ読み進めます。この作業のときに注意すべきは、自分の問題意識を常に意識し続けることです。自分の関心ごとと照らし合わせながら論文を読んでいくと、次第に自分のRQがはっきりしてくるでしょう。

最後に再度強調しますが、RQの組み立てと先行研究レビューは同時進行です。就活やサークルの用事で忙しい人も多いでしょうが、結局のところ独論と卒論の執筆においては「どれだけ先行研究を踏まえたRQを設定できるか」が最初のポイントになると思います。独論、卒論を控えているけど正直何をすればいいのかわからないという方は、まずは自分の関心に沿った文献を探し、RQを常に意識しながら十分に先行研究を読み進めていくと良いのではないのでしょうか。適切なRQを立てることは研究の第一歩であると同時に、最も重要なパートです。時には指導教員の先生や他の学生と話し合いながら、十分に時間と労力をかけてください。

文責：WATANABE（国際(政策)）



※独論(独立論文)は、国際総合学類3年次生が執筆する研究論文のこと。
国際総合学類の学生さんは3年次からゼミに所属して、ゼミ1年目の成果のまとめとして独立論文を執筆するんだって！